就労移行支援事業所
チャレジョブセンター
熊谷

2026年5月号
NO.120

チャレ＊くま通信

「チャレ＊くま通信」は就労移行支援事業所チャレジョブセンター熊谷が定期的に発行する広報誌です

就職・検定情報

▽今月は1名、就職されました。技術者派遣サービス会社で軽作業を中心とした業務を担当します。入社に向けて生活リズムを整え、自分が克服すべき課題をしっかり捉えていました。その甲斐もあってか、仕事にも順調に取り組み、早くも業務の幅を広げる活躍ぶりとのこと。初めての社会人、見事な船出です。おめでとうございます。

▽資格試験では、MOS（Word）エキスパートに1名、合格されました。当センターの就労定着支援サービスを受けられている卒業生です。資格取得で待遇も向上するとのことで、就職後も勉強し続けている努力家。この広報誌にも原稿を寄せてくれるライターの一面も。おめでとうございます。

編集部まえがき

君はあまりにも無邪気で、あまりにも無慈悲だ。あえて言おう。悪魔であると。その笑顔の裏には何を隠しているのやら。僕の想像力では困難だ。まだ、もう少し自堕落を。怠惰な僕に微笑んでほしい。あぁ、また日を駆け抜けていく。だからニガテだ。こどもの日。

くまdeレポート

「戸惑った先の気づき」
～「飽きっぽい」を自認するAさんの軌跡～

「今日は何しましょ」。よく言っていた。前向きなのか、それとも。この広報誌の制作作業にずっと携わってくれたAさんが、就職した。二年間ほぼ休まず通所。通所最終日、二年を懐古しながら綴ってくれた、Aさんの追想記をお届けします。

■意外な出来事

通所前の体験実習でこうなってしまっては、ここに通うこともかなわないな、と思った。発作が起き、隣に座っていた利用者さんに倒れ込んでしまったのだ。ここでもまた、嫌がられる、と思ってしまった。でも、私のことを気遣う反応が返ってきた。意外だった。これまでに体験実習をした別の事業所では、「他の人に影響するから」と通所に至らなかったり、体験実習にさえ漕ぎつけなかったりしたからだ。

チャレジョブセンター熊谷での一週間にわたる体験実習が終わった。通いたい、でも。これで終わりでもいいかな、という思いもあった。とはいうものの、大学をやむなく辞めて以降、何もしない状態ではまずい、という思いも募っていた。

なんと。通所できることになった。でも、やっと前に進める、とまでは思わなかった。

「今日は何しましょ」前向きか、それとも

■戸惑いながらも

通所を始めてからしばらくは、戸惑いが続いた。

一つは、他の利用者さんに対する振舞い方だ。学生時代は医師になるべく、患者さんにどう向き合うか常に考えてきた。相手の身になって声がけしなければという緊張感が抜けない。利用者さんとのコミュニケーションに戸惑ってしまった。

さらなる戸惑いは、ここで何をするかだ。医師になるため一直線に進んできたので、新たな道を、とは簡単にはいかなかった。多くの利用者の人が学んでいるMOS資格の勉強に着手したものの、しっくりこない。パソコン（PC）関連の資格に馴染みがなかった。専門学校でPCを教えていた経歴も持つここの施設長と話し合いながら、MOS資格以外のPC系の勉強にもチャレンジした。ITパスポートや基本情報技術者試験など、いま思えば、大胆な挑戦だ。しかし、試験を受けるまでには至らなかった。なぜか。「飽きっぽい」、なせいだからか。

広報誌制作セミナー主催
イベントで司会も務めた

■いま、通い終え

訓練内容を自由に組めるのが、ここの事業所の特徴だ。「揺りかご」となるか「温床」となるか。熱しやすく冷めやすい私にとっては、試練である。

いろいろな訓練を試した末、何とか続いたのが、一つだけあった。広報誌を制作する訓練だ。新聞社や出版社をイメージしているこの訓練は、異彩を放っていた。新聞記者出身の職員から教われるのも、なかなかない機会だと思った。思えば小学生のとき、広告にも興味を持っていた。肌に合っていたのだろう。編集や制作に留まらず、イベントの企画や進行にも携わることができた。原稿を何度も直されたが、組織で作り上げることの現実を学べた。今日ここを通い終えた私にとって、これは大きな成果だ。